

「発展」した挨拶を

私には校長として心掛けていることがあります。それは「挨拶（あいさつ）は自分から」ということです。年下や目下の者から挨拶すべきという考え方の人もいるでしょうが、私はそうは思いません。「挨拶」も「拶」も、共に「迫る・接近する」という意味があります。それならば、「私から（相手に）近づこう、迫っていこう」と単純に考えているだけです。

したがって、生徒や教員はもちろん、事務官、用務員、学習支援員、給食配膳員、来客、宅配業者……あらゆる立場の人に自分から声をかけようと心掛けています。ALTのリンジーにも、下手な英語で私から毎回挨拶しています。

本日は卒業式後の初日。一、二年生の新たなスタートということで、「決意集会」が開催されました。心地よい緊張感とあふれるようなやる気が感じられる集会でした。私も最初に話をさせてもらいましたが、真剣に聞く姿もまなざしはもちろん、大きくうなずきながら話を聞く姿も多くあり、新たなスタートにふさわしい雰囲気がありました。

その中で、級長たちリーダーから「縦のつながりをつくる」という話がありました。卒業した三年生から託された思いです。コロナ禍でなかなか達成できなかった「縦のつながり」を後輩たちに作ってもらいたいという思いに応えようと、彼らは早速動き始めました。これからのように「縦のつながり」がはつきりとした形となっていくか楽しみです。

リーダーたちが選んだ方法は「挨拶活動」です。リーダーたちが生徒玄関で積極的に挨拶をして手本を見せ、更には、すばらしい挨拶をした生徒を放送で紹介しようというのです。刺激になる情報を発信して、全校の挨拶を、そしてつながりを高めていきたいと考えていることはすばらしいと思います。

そこで、私はあえて尋ねてみたいと思います。それは、「縦のつながり」を作る以上、玄関という決まった場所だけではなく、日常的に一年生と二年生の間に挨拶が生まれなければなりません。日常的に一年生と二年生の間に挨拶が生まれなければならぬと思います。それを実現する覚悟で臨んでいますか、と。とりわけ、現二年生に「まずは先輩の自分たちから挨拶するぞ」という思いがどれだけ強く生まれまれているか……そこを最上級生になる彼らに尋ねてみたいと思います。

年下か年上か、男性か女性か、これまで言葉を交わしたことがある生徒かどうか、どこの小学校を卒業した生徒か……こういうことも吹っ飛ばすような「縦のつながり」

ができることを私は期待しています。これこそ「発展」した挨拶と言えるかもしれませんね。

（三月八日記）

